

県内企業の夏のボーナスは前年比▲0.2%、 製造業は▲10.7%と大幅に減少

———埼玉県内企業2020年夏のボーナス支給状況アンケート調査———

2020年夏のボーナス支給状況について、県内企業へのアンケート調査を実施した。一人当たり支給額は前年比▲0.2%となり、製造業は▲10.7%と大幅なマイナスとなった（7月中旬実施。対象企業935社、回答企業219社、回答率23.4%）。

○2020年夏のボーナス支給総額を支給対象人員で割った、一人当たり支給額は346,813円となり、前年実績の347,458円に比べ0.2%の減少となった（ボーナス支給実額を記入いただいた企業146社を集計）。

米中貿易摩擦や中国経済の減速などによる景気の不透明感の強まりなどから減少した昨年夏に引き続き、今回調査では新型コロナウイルス感染症による影響もあり、2年連続の減少となった。

業種別にみると、製造業は363,007円と前年の406,504円から▲10.7%と大きく減少、非製造業は341,980円で前年の329,501円から3.8%の増加となった。前年比では、製造業では2年連続の減少、非製造業では2年ぶりの増加となった。

○2020年夏のボーナス支給総額は前年比1.5%の増加となった。

支給対象人員が前年比1.7%の増加となり、支給総額では増加した。

製造業の支給総額は▲10.5%と大幅に減少した。

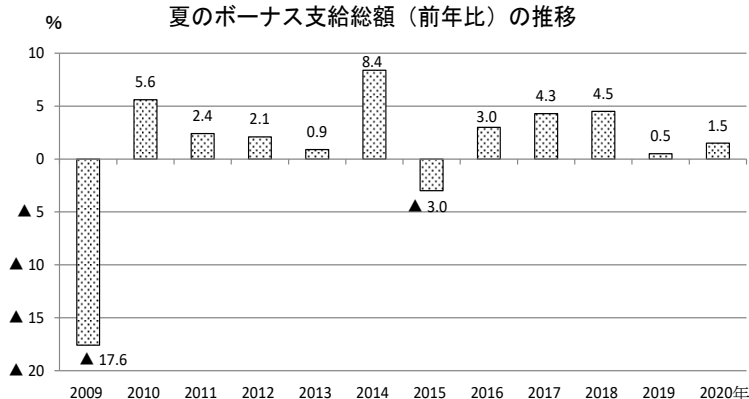
○2020年冬のボーナス支給予定については、2019年冬のボーナスに比べて、「増加」7.5%、「変わらない」48.5%、「減少」39.0%、「支給しない」5.0%となった。「変わらない」とするところが半数近くを占めるが、「減少」が「増加」を大幅に上回った。「減少」が「増加」を上回るのは、本設問項目を開始した2013年調査以来初である。新型コロナウイルス感染症の影響により、県内企業の売上、利益の先行きに厳しさが見込まれる中、今冬のボーナスは厳しい状況が予想される。（照会先 太田）

2020年夏のボーナス一人当たり支給額

（社、円、%）

| | 企業数 | 一人当たり支給額 | | |
|------|-----|----------|---------|-------|
| | | 2020年 | 2019年 | 前年比 |
| 全産業 | 146 | 346,813 | 347,458 | ▲0.2 |
| 製造業 | 45 | 363,007 | 406,504 | ▲10.7 |
| 非製造業 | 101 | 341,980 | 329,501 | 3.8 |

夏のボーナス支給総額（前年比）の推移



2020年冬のボーナス支給予定

単位：%

| | 増加 | 変わらない | 減少 | 支給しない |
|------|-----|-------|------|-------|
| 全産業 | 7.5 | 48.5 | 39.0 | 5.0 |
| 製造業 | 9.2 | 27.7 | 60.0 | 3.1 |
| 非製造業 | 6.7 | 58.5 | 28.9 | 5.9 |

2020年夏のボーナス支給状況について

2020年夏のボーナス支給状況について、県内企業へのアンケート調査を実施した（対象企業935社、回答企業数219社、回答率23.4%）。

（1）ボーナス支給実績の有無

2020年夏のボーナスの支給実績をたずねたところ、「正社員・パートともに支給」とした企業は54.9%、「正社員のみ支給」とした企業は36.6%、「支給しない」とした企業は8.5%となり、9割以上の企業でボーナスを支給している。

前年実績と比較すると、「正社員・パートともに支給」は0.1ポイント増加、「正社員のみ支給」は0.4ポイント減少、「支給する」は0.3ポイント減少、「支給しない」は0.3ポイント増加した。これまで、人手不足感の強まりもあり、パートを含めてボーナスを支給する企業が増えてきたが、今回調査では新型コロナウイルス感染症による景気の先行き不透明感から、支給する企業は微減となり、支給しない企業が微増となった。

業種別にみると、「正社員・パートともに支給」とする企業は製造業では70.1%、非製造業では47.9%である。「正社員のみ支給」は製造業で22.4%、非製造業で43.2%。また、「支給しない」は製造業で7.5%、非製造業で8.9%であった。

製造業では「正社員・パートともに支給」とする割合が高く、非製造業では「正社員のみ支給」とする割合が製造業に比べて高い。「支給しない」とするところはいずれの業種とも1割以下であった。

2020年夏のボーナス支給実績の有無 (%)

| | 合 計 | 製造業 | 非製造業 |
|------------------|----------------|----------------|----------------|
| 支給する | 91.5 (91.8) | 92.5 (91.3) | 91.1 (92.0) |
| 正社員・パート ともに支給 | 54.9 (54.8) | 70.1 (68.1) | 47.9 (48.7) |
| 正社員のみ支給 | 36.6 (37.0) | 22.4 (23.2) | 43.2 (43.3) |
| 支給しない | 8.5 (8.2) | 7.5 (8.7) | 8.9 (8.0) |

() 内は2019年実績

（2）一人当たりボーナス支給額

2020年夏のボーナス支給総額を支給対象人員で割った、一人当たり支給額は346,813円となり、前年実績の347,458円に比べ0.2%の減少となった（ボーナス支給実績を記入いただいた企業146社を集計）。夏のボーナスの一人あたり支給額は2019年に4年ぶりに減少に転じ、2020年は2年連続で減少となった。

業種別にみると、製造業は363,007円と前年の406,504円から▲10.7%と大きく減少、非製造業は341,980円で前年の329,501円から3.8%の増加となった。非製造業では従業員数の多い小売業で一人当たり支給額が増加したことが、非製造業全体の金額を押し上げた。前年比では、製造業では2年連続の減少、非製造業では2年ぶりの増加となった。

2020年夏のボーナス一人当たり支給額

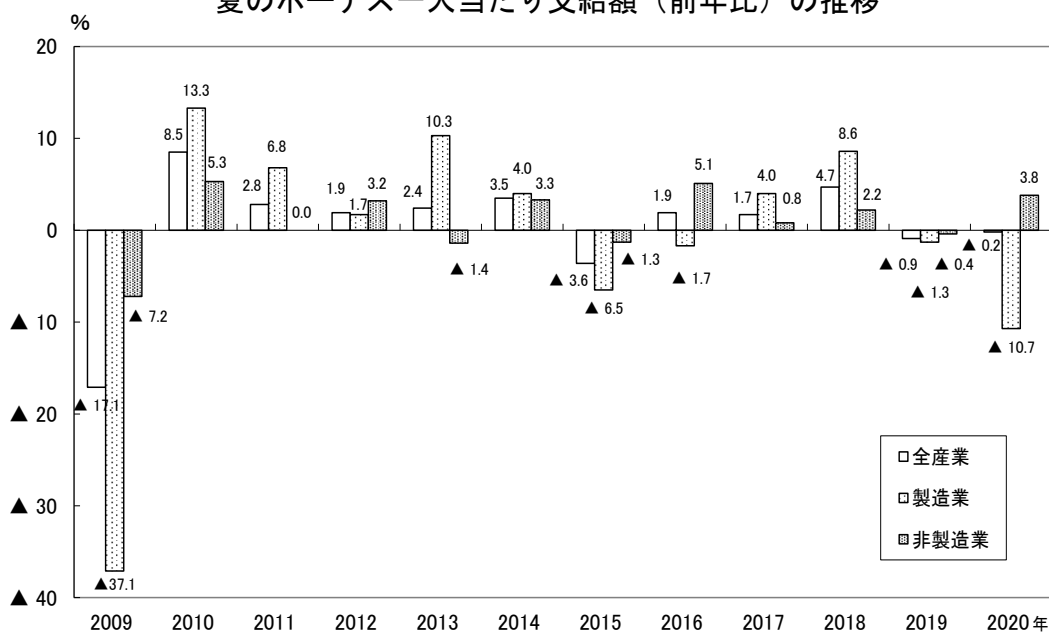
(社、円、%)

| | 企業数 | 一人当たり支給額 | | |
|------|-----|----------|---------|--------|
| | | 2020年 | 2019年 | 前年比 |
| 全産業 | 146 | 346,813 | 347,458 | ▲ 0.2 |
| 製造業 | 45 | 363,007 | 406,504 | ▲ 10.7 |
| 非製造業 | 101 | 341,980 | 329,501 | 3.8 |

(3) 一人当たり支給額（前年比）の推移

夏のボーナス一人当たり支給額（前年比）の推移をみると、2009年にリーマンショックの影響を受け、企業収益、雇用環境の悪化などにより、前年比▲17.1%と大幅な減少となった。その後、売上・利益の改善や雇用調整が進んだことなどから、ボーナス支給を回復する動きがみられ、2014年まで5年連続で改善が続いた。

夏のボーナス一人当たり支給額（前年比）の推移



2015年は消費増税後の売上・利益回復の遅れなどから6年ぶりに減少に転じた。2016年から2018年までは売上・利益改善の動きや人手不足感を背景として増加が続いていたが、2019年は米中貿易摩擦や中国経済の減速などによる景気の不透明感の強まりなどから4年ぶりに減少に転じ、今回調査では新型コロナウイルス感染症による影響もあり、2年連続の減少となった。

(4) 支給総額と対象人員

アンケート回答企業の2020年夏のボーナス支給総額は79億29百万円で、当該企業の前年実績78億12百万円から1.5%の増加となった。また、支給対象人員は前年比+1.7%の増加となり、支給総額、支給人員ともに増加となった。今年の夏のボーナスは支給人員が増加したことから、支給総額は前年よりも増加となった。

業種別の支給総額の前年比をみると、製造業が前年比10.5%の減少、非製造業が同6.0%の増加。支給対象人員は製造業で同0.2%の増加、非製造業で同2.1%の増加となった。製造業、非製造業のいずれも支給人員は前年に比べ増加しているが、支給総額は非製造業では増加する一方、製造業では大きく減少した。

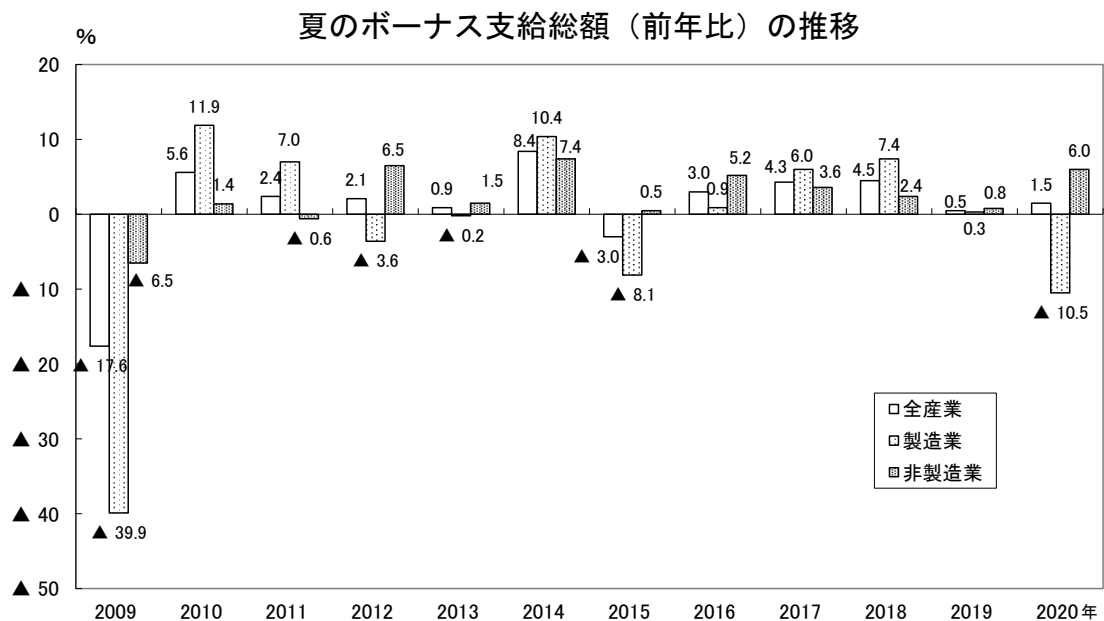
2020年夏のボーナス支給総額と支給対象人員

(百万円、人、%)

| | 支 給 総 額 | | | 支 給 対 象 人 員 | | |
|-------|---------|-------|--------|-------------|--------|-----|
| | 2020年 | 2019年 | 前年比 | 2020年 | 2019年 | 前年比 |
| 全 産 業 | 7,929 | 7,812 | 1.5 | 22,861 | 22,483 | 1.7 |
| 製 造 業 | 1,908 | 2,131 | ▲ 10.5 | 5,255 | 5,243 | 0.2 |
| 非製造業 | 6,021 | 5,681 | 6.0 | 17,606 | 17,240 | 2.1 |

(5) 支給総額（前年比）の推移

夏のボーナス支給総額（前年比）の推移をみると、2009年に▲17.6%と大きな落ち込みとなった後、持ち直しが続き、2014年まで5年連続の増加となったが、2015年は一人当たり支給額同様6年ぶりの減少となった。その後、ボーナス支給額を回復する動きがみられたが、2019年は米中貿易摩擦や中国経済の減速などによる景気の不透明感の強まりなどから伸びが鈍化、今回調査では新型コロナウイルス感染症による景気の先行き不透明感から、昨年夏に引き続き増加率は低く、製造業では大幅な減少となった。



(6) 2020年冬のボーナス支給予定

2020年冬のボーナス支給予定については、2019年冬のボーナスに比べて、「増加」7.5%、「変わらない」48.5%、「減少」39.0%、「支給しない」5.0%となった。「変わらない」とするところが半数近くを占めるが、「減少」が「増加」を大幅に上回った。「減少」が「増加」を上回るのは、本設問項目を開始した2013年調査以来初である。新型コロナウイルス感染症の影響により、県内企業の売上、利益の先行きに厳しさが見込まれる中、今冬のボーナスは厳しい状況が予想される。

業種別にみると、製造業では「増加」が9.2%、「減少」が60.0%。非製造業では「増加」が6.7%、「減少」が28.9%と、製造業において厳しい見方が多くなっている。

2020年冬のボーナス支給予定

単位：%

| | 増加 | 変わらない | 減少 | 支給しない |
|------|-----|-------|------|-------|
| 全産業 | 7.5 | 48.5 | 39.0 | 5.0 |
| 製造業 | 9.2 | 27.7 | 60.0 | 3.1 |
| 非製造業 | 6.7 | 58.5 | 28.9 | 5.9 |

別 表

業種別対象・回答企業数（2020年夏のボーナス支給について）

| | 対象企業数 | 回答企業数 | 業種別構成比 (%) | うち中小企業 の占める比率 (%) |
|-------------|-------|-------|---------------|-------------------------|
| 全 産 業 | 935 | 219 | 100.0 | 92.2 |
| 製 造 業 | 311 | 69 | 31.5 | 98.6 |
| 食 料 品 | 37 | 9 | 4.1 | 100.0 |
| 織 維 | 12 | 1 | 0.5 | 100.0 |
| 化 学 | 30 | 4 | 1.8 | 100.0 |
| 窯 業 ・ 土 石 | 9 | 1 | 0.5 | 100.0 |
| 鉄 鋼 | 9 | 0 | 0.0 | --- |
| 非 鉄 金 属 | 9 | 2 | 0.9 | 100.0 |
| 金 属 製 品 | 19 | 6 | 2.7 | 100.0 |
| 一 般 機 械 | 33 | 2 | 0.9 | 100.0 |
| 電 気 機 械 | 36 | 11 | 5.0 | 100.0 |
| 輸 送 機 械 | 32 | 9 | 4.1 | 88.9 |
| 精 密 機 械 | 14 | 2 | 0.9 | 100.0 |
| 木 材 ・ 木 製 品 | 9 | 4 | 1.8 | 100.0 |
| 紙 ・ 紙 加 工 品 | 12 | 2 | 0.9 | 100.0 |
| 印 刷 | 26 | 4 | 1.8 | 100.0 |
| そ の 他 製 造 | 24 | 12 | 5.5 | 100.0 |
| 非 製 造 業 | 624 | 150 | 68.5 | 89.3 |
| 卸 売 | 94 | 29 | 13.2 | 89.7 |
| 小 売 | 86 | 16 | 7.3 | 68.8 |
| 建 設 | 67 | 23 | 10.5 | 100.0 |
| 不 動 産 | 58 | 15 | 6.8 | 100.0 |
| 運 輸 ・ 倉 庫 | 81 | 16 | 7.3 | 100.0 |
| 電 気 ・ ガ ス | 14 | 5 | 2.3 | 100.0 |
| 情 報 通 信 | 51 | 5 | 2.3 | 100.0 |
| 飲 食 店 ・ 宿 泊 | 42 | 9 | 4.1 | 77.8 |
| サ ー ビ ス | 131 | 32 | 14.6 | 81.3 |